

山口 敏子 議員

清流クラブ

大規模水災害に対する タイムラインの導入を

問

(1) 年々地球温暖化の影響で台風も巨大化し、コースも、予想以上の速さ、発生時のままかそれ以上の大きさで日本に上陸してくる。

アメリカ合衆国で多くの犠牲者を出したハリケーン・カトリナへの対応の反省から、事前に準備し、整えるためにタイムライン(防災行動計画)【図】が策定された。

2年前にニューヨークを襲ったハリケーン・サンディは、このタイムラインが本格的に導入され、犠牲者がゼロとなり、先を見越した対応により被害を抑え

られたと考えられる。

本市では、タイムラインは策定されているか。



大規模水災害に関する防災行動の流れを時間軸により定めたもの。発災する前から「いつ」「誰が」「何を」を事前の準備行動として明確にすることで対応のスピードを生む。

国土交通省は4月の「水災害に関する防災・減災対策本部」でタイムラインの導入など、被害の最小化と早期復旧を可能にするための新指針を決定。発災後の対応だけでなく、発災前の対応にも注力する姿勢を示した。

(2) 公共施設のバリアフリー化により、障がい者にとって避難所が安心の場所になることが大切だと考

える。

避難所のバリアフリー化について、本市の考えを尋ねる。

(3) 厚生労働省によると、災害時に支援が必要な高齢者や障がい者を受け入れる福祉避難所が全国で1万1千254カ所ある。東日本大震災後は約1.5倍になった。

本市には、福祉避難所はあるか。

国と協議を始めた 策定に向け研究する

答 総務部長

(1) タイムライン作成に向けて、国土交通省木曾川下流事務所と協議を始めた。災害対応は、重大な責任が伴うことから、法に基づき防災業務計画をはじめとする各種体制・制度に基づき作成していく必要があるの

で、今後、このタイムラインの策定に向けて十分研究をしていきたい。

(2) 避難所となっている公共施設の入り口は、スロープの設置などバリアフリー

化に努めているが、トイレは、まだ対応できていない施設があるので、今後の課題としたい。

(3) 本市は、必要に応じて開設し、ケアが必要な者を一般の避難所から福祉避難所へ移動することとし、5施設(総合福祉センター、十四山総合福祉センター、輪中の郷、愛厚弥富の里、長寿の里)を指定している。

市内主要道路は液状化等に 耐えられる耐震構造か

問

巨大地震を想定し、市内を縦断している中央幹線道路をはじめ主要道路は、液状化対策を施した耐震構造となっているのか。

また、橋はどうか。

耐震構造ではないが地盤 改良など対策はしている

答 開発部長

道路法に基づき道路構造令が定められている。これに基づき整備をする。道路構造令では、液状化などに

対する耐震構造の整備基準が示されていないため、中央幹線などについては、液状化などに耐えうる道路整備は行っていない。しかし、液状化などに耐えられないよう、耐震構造ではないが、舗装面を支える地盤の支持力が低いところは地盤改良を施し、均一な支持力を確保することにより、大地震の揺れによる舗装面の不等沈下を減少させ、被災後の通行を少しでも早く確保できるような事業を進めている。

また、橋梁については、耐震設計に基づき、地震時における橋の安全性を確保するよう施工し、地震に対応するようにしている。

長寿命化修繕計画に基づき、計画的な修繕を施し、橋梁の長寿命化及び安全を確保する。今年度は東末広の末広南橋、東中地の6号橋、市道六條鯉ヶ地線の坂中地橋、市道又八弥富線の紺屋橋の4橋の補修工事をする予定である。